

生涯学習・社会教育関係職員研修講座【スキルアップ研修2】

令和6年7月12日(金)10:30～15:30 青森県総合社会教育センター 受講者30名

1 内容

【講義・演習】

「実践演習！講座の新たな企画・運営のヒント」～講座のマンネリ化対策の秘訣とは～

【選択講座】

ア 「ICT活用に関する講座」

～Google フォームのアンケート活用法 他～

講師 岩手県生涯学習推進センター

社会教育主事 たかはし けい 高橋 啓 氏



【経歴】

岩手県立生涯学習推進センターでは、2020・2021年の2年間に渡り、「社会教育におけるICT活用のあり方に関する調査研究」に取り組み、その成果を「ICTスキルアップ研修講座」や「センター・公民館・主管課職員等セミナー」等の事業に取り入れながら、講座運営を行っている。

【講義要旨】

- 社会教育におけるICTの活用とは、ICT機器を社会教育・生涯学習の現場で使用する(オンライン配信等)、ICT機器の使い方を学ぶ(デジタルディバイド解消等)、地域住民の意向・実態を捉える(アンケート調査等)こと等が挙げられます。
- Googleフォームのアンケートを活用すると、操作が簡単、結果の集計を自動で行ってくれる、集計データをExcelで活用できる(CSVファイル)等のメリットがあります。

【受講者の感想】

- ・Googleフォームを使用したことがなかったので勉強になりました。活用できるようになりたいと思いました。
- ・学びたい内容だったので、大変勉強になりました。もっと長時間学びたかったです。

【選択講座】

イ 「青少年教育に関する講座」

～地域資源を活かしてマンネリ解消！ワンポイントアドバイス～

講師 国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター

企画室長 ひぐち たく 樋口 拓 氏



【経歴】

地域の自然や伝統文化を活かした持続可能な開発のための教育(ESD)の実践と研究を専門にしており、これまでに福岡県筑前町、東京都渋谷区にて地域資源の発掘と言語化に取り組み、それらを活かして地域の方とコラボレーション事業に携わった。青森大学・九州大学に所属し、研究活動に加え、学生への教育活動や最新知見の習得にも励んでいる。

【講義要旨】

- 今求められる青少年教育と体験活動は、VUCA※の時代を生き抜くために必要なスキルとそれらの土台を育む体験活動です。※V(変動性)、U(不確実性)、C(複雑性)、A(曖昧性)
- 魅力あるイベントの作り方に、「クリエイティブ思考」や「地域価値創造型事業」を活用することで地域資源の再発見につながります。
- 地域資源において、情報の編集とストーリーテリングを行い、地域資源を言語化することで、新しい講座ができるのです。

【受講者の感想】

- ・事業を計画する際の組み立ての参考になりました。自分の地域にある資源の一つ一つにもう少し興味をもって、特色ある事業にしたいと思います。
- ・地域資源の見方・視点について勉強になりました。体験活動が青少年世代にこそ大切である根拠が認識できました。

【選択講座】

ウ 「成人教育（高齢者対象）に関する講座」
～アクティブシニアが輝くためのヒント～
講師 山形県生涯学習センター 学習振興部

主幹（兼）部長補佐 おかざき 岡崎 かずたか 和貴 氏



【経 歴】

県民の生涯学習推進と人材育成のために、市町村及び関係機関・団体と連携しながら、「人材育成」「生涯学習活動支援」「学習情報の収集提供」「市町村・団体支援」「講座等の学習機会の提供」等の事業を総合的に実施している。特に人材育成では、社会教育関係職員だけではなく、シニア世代を対象とした地域づくりに関する担い手の育成にも尽力している。

【講義要旨】

- 高齢者の講座で大切にしたいことは、社会参加、地域活動を強要しないこと、講義一辺倒ではなく、活動につながる企画づくりと受け皿になる活動の場を準備し、そして、人のつながりを作り出すような学習にすることです。
- 山形県における高齢者をターゲットにした担い手育成事業の最終目的は、地域での住民主体の「居場所づくり」や「生活支援サービス」を活動できる人材(担い手)を目指しています。
- 地域の人とのつながりをつくっておけば、「見守り」「声がけ」「手助け」などの支え合いや地元の困りごとをみんなで解決できるようになると考えています。

【受講者の感想】

- ・初めて、高齢者対象の成人教育について学び、とても視野が広がり、今後、もっと考えていかなければならない分野だと実感しました。
- ・山形の実践講座の取組事例が大変参考になりました。青森県でもこのような講座が広がっていくとよいと思いました。